
俺と戦友（腐れ縁など）とデスゲーム

四式ハヤテ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺と戦友（腐れ縁など）とデスゲーム

【Nコード】

N8812Z

【作者名】

四式八ヤテ

【あらすじ】

「ガンダム一年戦争・軍人たちの栄光」と言う最新ゲームが稼働し始めたがそこで悲劇がおこる

誰かの日記

2XXX年 意識を体から切り離し、仮想空間のアバターに感覚を移す技術が完成し、その技術を使用したゲームなどがブームになり、そのブームに乗ったゲーム「ガンダム一年戦争・軍人たちの栄光」がベーター版を稼働し始め、瞬く間に「とてもリアル」とか「細部まで丁寧」などの口コミとともに広がっていった。

正規版が早くやりたいという声が大量に出てきたため正規版稼働開始日時を三ヶ月も早めることになり、ファンたちを喜ばした。しかし、誰も稼働日初日にこんな悲劇が起こるなど誰が予想しただろうか。

誰かの日記（後書き）

初めての投稿なので誤字や脱字があるかもしれませんがよろしくお願ひします。

デスゲームの幕開け（前編）（前書き）

どちらかと言いつとこっちが1話目になっています。すみません
それではどうぞ

デスゲームの幕開け（前編）

俺、陸奥騎士むつないとは新作ゲームである「ガンダム一年戦争・軍人達の栄光」をプレイするためにゲーセンにむかって歩いていった。学校が終わってから、

「今日から冬休みだ〜何する？」

「モ〇狩やるうぜモ〇狩。」

「いいで〜。俺んちでやる〜。」

「何狩に行く？やっぱり……………」

そんな声を見無視して俺はオーラを出していた。周りを通ったやつらが顔が引きつるほどすごいオーラを出していた。しかし、もっとすごいオーラを振りまいているやつが斜め前と右横にいた。

俺の友人で同級生でもある高雄たかおなち那智と龍田たつたまな真魚だ。

高雄は腐れ縁で龍田は去年知り合った軽度のゲーマーだ。

ここにはいないが先輩である雲龍流星先輩うんりゅうせいせいも今頃オーラを出しているところだろう。

先輩は、

「天才やっててよかった。お前も喜べよ。」

とか言う人だが、ほんとに天才と言っても良いほど賢いから驚きだ。しかし、2年ほど先輩は重度のヒッキーだったらしいからさらに驚きだ。

なんだかんだで先輩と高雄と龍田と4人で行動することが多かった。今日は4人で「ガンダム一年戦争・軍人達の栄光」をプレイすることになっていたの、集合場所のゲーセンに向かっていた。

「三十六秒の遅れだぞ。もっと早くに来い後輩よ。」

「高雄、龍田はどこだ？あいつ遅れてるのか？」

「いや、あいつは部屋取るために受付カウンターに行ったぞ。」

「そうか。なら行くか。」

「おう。とつとつと行くうぜ。」

「後輩よ完全無視は無いだらうよ。ちょっとは相手してくれよ。」
「龍田、ちゃんと部屋取れてるかな？あいつのことだしミスってないといいけど。」

「大丈夫だろ。多分取れてるよ。」
先輩の小言を無視して龍田が待つているはずのゲーセンの中に入っていくと、龍田が店員ともめていた。

「だから、僕は男で、15歳です。何回言ったらわかるんですか？」
「君は女の子でさらに12歳になってないでしょう。その生徒手帳はお兄さんのでしょ。このガンダムをプレイする部屋を取るには15歳以上人しかできないの。結構ぐろいんだよ。女の子にはやめといたほうが良いんだよ。」

「だからー……」
龍田と店員がもめているところを笑いながら見ていたが、早くガンダムをしたいので龍田に助け舟を出してやることにした。

「すいません。そいつは俺らの同級生で男なんすよ。外見は女で小学生ばいですけど。」

「あ、高雄遅過ぎるよ。店員に誤解されたじゃないか。僕じゃなくて高雄が来れば誤解されずにすぐに部屋取れたのに。」

「すまんすまん、お前と店員がもめているの見てたら面白すぎたからな。」

「最低だー。ここに最低な野郎が一人いるよー。」
「そうだが何が悪い？お前も始めからわかってただろう。」

「おい、部屋取ったから早く行くぞ。ぼやぼやするな死にたくなかったらな。」

「なぜぼやぼやしたれ死ぬの？ここ砲弾とか飛んでこないよ？何が起こるの？」

「それは秘密だ。ほらいくぞ。」
「あいよ。わかったよ。」

俺らは無事部屋をとることに成功し、浮かれていた。この後何が起こるかも知らずに。

デスゲームの幕開け（前編）（後書き）

一週間で書くつもりでしたがオーバーしてしまいましたすいません
うまく書けませんがこのからもよろしくお願いします

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8812z/>

俺と戦友（腐れ縁など）とデスゲーム

2012年1月6日11時52分発行